

令和元年度 大学連携講座 実施報告書

明日の“介護”を創るために ～ふじのくにの地域共生を語ろう～

1 趣旨

静岡県の地域資源を活かし、魅力発信につながる研究内容をテーマとした講座を、県内の複数大学等の教員により共同で開催し、ふじのくに地域・大学コンソーシアム構成校の教員等による学術・研究成果の積極的な地域還元を図ることを目的とする。本年度は、リカレント教育を推進するため、福祉・医療分野の大学が連携した講座を開催した。

2 代表大学

静岡福祉大学

3 連携大学

聖隸クリリストファー大学

4 役割分担

全3講座のうち、第1回、第3回の主担当は、静岡福祉大学とし、第2回の主担当は、聖隸クリリストファー大学とする

5 開催概要

回	開催日	開催場所	名称・テーマ等	参加人数
第1回	8月29日（木）	大村公民館 (焼津市)	老いを支え、地域を拓く介護 ～新たな介護福祉（土）像を求めて～	53
第2回	10月1日（火）	地域情報センター (浜松市)	外国人介護労働者と共に作る明日の “介護”	44
第3回	12月2日（月）	プラサヴェルデ (沼津市)	居場所づくりと地域介護 ～共生型介護の可能性を探る～	37
計				134

第1回 講座の概要

1 講座テーマ：「老いを支え、地域を拓く介護～新たな介護福祉（士）像を求めて～」

2 主担当大学及び所属：静岡福祉大学

3 連携先大学及び所属：聖隸クリストファー大学

4 日時：令和元年8月29日（木） 13時30分～16時30分

5 会場：大村公民館（焼津市）

6 参加者数：53人（一般 48人、学生 5人）

7 講座の概要と成果

新井恵子氏（静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科 教授）による基調講演では、まず、介護福祉士の概要、業務の変遷などを解説した。その後、適切に利用者と接するためには、その利用者が生活していた地域などを知ることが重要であること、また、これからの中高齢社会においては、介護福祉士が地域で暮らす人々を支える存在にならなければならないと説いた。

シンポジウムでは、増田樹郎氏（静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科長 教授）のコーディネートのもと、小沼克典氏（ユニケア岡部 副施設長）、白井美由紀氏（静岡県立清流館高等学校 福祉科 教諭）、野田由佳里氏（聖隸クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科長 教授）による発表が行われた。

小沼氏は、副施設長の立場から地域で暮らすための職員教育の内容に関する紹介があり、白井氏は、福祉科教諭の立場から介護人材の育成方法や高等学校ならではの介護教育の課題について説明があった。最後に、野田氏は、大学教員の立場から、高等教育機関における介護の学びに関する紹介があり、4年間で介護福祉を学ぶ特色等の発表が行われた。

参加者からは、「介護福祉士の仕事が幅広くさらに深くなっていることに感動した」、「人材不足に悩む介護の世界で介護人をどう育てるかのひとつは地域にあるように感じた」、「介護の魅力が伝わった」といった感想が寄せられた。さらに、「また静岡福祉大学・聖隸クリストファー大学の教員の考えを聞きたい」、「さまざまな大学の取組みを同時に学べる機会はよい」、「高等教育機関のコラボレーションにより地域に知の還元があるのは有効である」といった、大学間の連携に関するポジティブな意見も多く見られた。

第2回 講座の概要

1 講座テーマ：「外国人介護労働者と共に作る明日の“介護”」

2 主担当大学及び所属：聖隸クリストファー大学

3 連携先大学及び所属：静岡福祉大学

4 日時：令和元年10月1日（火） 13時30分～16時30分

5 会場：地域情報センター（浜松市）

6 参加者数：44人（一般 43人、学生 1人）

7 講座の概要と成果

登壇者として野田由佳里氏（聖隸クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科長 教授）が基調講演を行った。その後、野田氏をコーディネーターとし、助言者に横尾恵美子氏（聖隸クリストファー大学 社会福祉学部長 教授）の他、シンポジストに鎌田裕子氏（社会福祉法人聖隸福祉事業団理事 常務執行役員 人事企画部長）、谷 功氏（静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科 准教授）、天野ゆかり氏（静岡県立大学 短期大学部 社会福祉学科 講師）、ベトナム出身の介護職員グエン ティゴック チイン氏とチャン ティ トゥイ氏（社会福祉法人千寿会 みさくぼの里）を加え、シンポジウムを開催した。

基調講演で野田氏は、「外国人介護労働者と共に作る明日の“介護”」と題して、自身が海外で実習生向けの授業を担当した経験と、介護人材の定着を目指して取り組んできた研究内容を踏まえた講演を行った。

シンポジウムでは、各シンポジストによる講演が行われた。

鎌田氏は、「外国人介護人材の受入と展望」と題して、聖隸福祉事業団の紹介および受入側としての工夫や取り組み内容についての説明を行った。

谷氏は、「留学生たちが介護福祉士養成施設で学ぶために」と題して、介護福祉士養成施設協会の紹介と、協会に所属する各養成校の現状と課題、および今後の展望について紹介を行った。

天野氏は、「EPA 介護福祉士の国家試験合格率に関する分析—ベトナム人合格者の語りから—」と題して、日本の介護福祉士試験に合格したベトナム人を対象に行った調査の内容紹介および今後の課題について説明を行った。

みさくぼの里で現在介護職員として働くベトナム出身のチャン氏・トゥイ氏は、野田氏とのQ&A形式で講演を行った。来日の経緯や苦労したこと、現在の仕事内容等について具体的に且つ詳しい話があり、参加者が外国人介護労働者について理解を深める機会となった。

第3回 講座の概要

1 講座テーマ：「居場所づくりと地域介護～共生型介護の可能性を探る～」

2 主担当大学及び所属：静岡福祉大学

3 連携先大学及び所属：聖隸クリストファー大学

4 日時：令和元年12月2日（月） 13時30分～16時30分

5 会場：プラサヴェルデ（沼津市）

6 参加者数：37人（一般 37人、学生 0人）

7 講座の概要と成果

基調講演は、共生型介護において先進的な取組みを実施している、富山県の社会福祉法人手をつなぐとなみ野の理事長尾崎順子氏によるものであった。富山型デイサービス（年齢や障害の有無に関わらず、誰も排除せずに柔軟に受け入れるサービス）、共生型グループホーム（認知症高齢者と知的障害者が同居）の概要、取組み内容、課題等に関し説明があった。地域には、介護や障害の垣根を外した多様なサービスが必要であるとコメントした。

シンポジウムでは、大久保功氏（静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科 助教）のコーディネートのもと、横尾恵美子氏（聖隸クリストファー大学 社会福祉学部長 教授）、及川ゆりこ氏（静岡県介護福祉士会 会長）、木下寿恵氏（静岡福祉大学 社会福祉学部 健康福祉学科 准教授）、佐々木炎氏（NPO法人ホッとスペース中原代表）による発表が行われた。

横尾氏からは、国が推し進める地域共生社会の概要説明、富山型デイサービスについて、共生型サービスの課題等の発表があった。及川氏は、職能団体の長としての立場から、介護人材不足、ニーズの多様化、自治体による取組みの違いなどの課題に関する説明があった。木下氏は、静岡県が2010年度に創設したふじのくに型福祉サービスの現状と当サービスが拡大していない理由等の解説が行われた。最後に、佐々木氏は、自身の経験、現代社会の特徴などを踏まえたうえで、今後は、地域におけるケア・支え合う関係の育成が重要であることを訴えた。

参加者からは、「障害と高齢者を全く別に考えて行動を取っていたが、これからは考え方を変えていかなければならない」、「講師やシンポジストの熱意がすばらしく刺激を受けた」、「共生型の様々な実践を知ることができ、とても興味深かった。取組みは難しいこともあるが、今後の地域には必要なものである」、「静岡県東部では共生型介護の施設を見たことがないため、とても勉強になった」という意見が見られた。